



週刊ダイジェスト

2021年11月13日  
19日付

金交付地産  
転作拡大加算見直し  
農水省方針 ナラシ要件追加も

を加える方針だ。JAグループも、ナラシ対策は米の需給安定に協力する農家に限定すべきだとして、同様の見直しを求めている。

得は見劣りがするな」と課題視している。22年産米の需給安定へ販作拡大の継続が必要な状況の中、自民党内には飼料用米への安定支援を求める声もあり、年末に向けた具体的な制度設計の議論が焦点となる。

農水省は2022年産の米対策の見直し方針を明らかにしました。転作助成の「産地交付金」を巡り、前年からの転作拡大分に10㍏当たり1万5,000円の配分措置の見直しを提起。収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の加入要件に、JAや実需者との事前の

出荷・販売契約等を加える方針。具体的な見直し内容は、今後の焦点となります。（11/18付1面）

今週の記念日  
★11月26日  
「ペンの日」  
1935年のこの日に日本ペンクラブが創立されたことを記念し、65年に制定しました。ペンクラブは文学を通じて諸国民の相互理解を深め、表現の自由を擁護するための国際的な文学者の団体。PENとは、Pが詩人・劇作家、Eが随筆家・編集者、Nが小説家を意味しています。

■＜日本記念日協会から＞

# 石炭火力は「削減」

成果文書採択  
気温上昇「1.5度に」

# COP26 閉幕

国連気候変動枠組条約第26回締約国会議（COP26）は13日、石炭火力発電の削減を各国が呼びかける文書を感じ込んだ成果文書「グラスゴー気候合意」を採択し、閉会した。世界の気温上昇を「1.5度」に抑える努力の追求も「明記。地球温暖化対策の国際合意「パリ協定」の運用ルールのうち、積み残されていた温室効果ガス削減量の温度取引の指針もまとめた。

## COP26成果文書のポイント



- ・ 気温上昇を1.5度に抑える努力を追求
- ・ 2022年末までに各国の30年の排出削減目標を強化
- ・ 排出削減対策のない石炭火力発電の削減へ努力を加速
- ・ 低排出のエネルギーシステムへの移行で支援の必要性を認識
- ・ 気候変動による被害に対応する資金調達を話し合う場を創設

えられた。

具体的には、各国に対して、排他制裁対策をなしていない国民気力発電の削減、努力を加速するよう促すことを、温室効果ガス削減の重要な手段として、エネルギーシステムへの移行に同じ技術開発などの要請した。

気温、湿度産業革命前から、1.5度にとどめ、目標を巡っては、気温上昇の上限の場合に比べて気候変動の影響ははるかに少ないと認識し、1.5度を目指し、その努力を追求する。

COP26は会期を1日延長し、詰め交渉  
一つだった石炭火力発電に関する部分は、当  
に中国とインドが反

求することを決議する」と踏み込んだ表現



農研機構、93品種  
個人100円・団体50円

農防機構は、同機構が単独で育成権を持つ果樹・育成登録した品種（登録品種）について、農家が自家増殖する際に許諾料の支払いを求めず発表した。ブドウ、シャインマスカットなど12品目93品種が対象。2020年より以降、増殖し立派な個人申請の場合は100円、JANAなどで団体の申請は海外流出防止へ、農家が収穫物から種子を取り次期作物に使う「自家増殖」は、品種開発者の許諾が必要となる。同機構によると今回、自家増殖の許諾料は、苗木を増殖する種苗会社が開発者に支払うことで、許諾料と同水準で、「農家の負担が重くならないように必要最低限の額とした」（知的財産部）。許諾料は1000単位を園地に掲示する。増殖本数は1000単位以下の申請を推奨する。許諾の認可は「第三者に譲渡しない」「海外に持ち出さない」「他の条件を農家が同機構H.P.などで把握、順守することが前提。ポスターの掲示など一連の許諾手続きを通じ、同機構が自家増殖の実態を把握できるように」、条件違反が判明した場合、許諾を解除する。悪質な場合は、改

# 22年産 廃作募集受け加速

った岩手県は、耕作戸数も全国一位で小規模生産者が多い。自然乾燥を要する品種が主体で省力化が進まなかったことも要因だ。県は9月に葉たばこ産地対策会議を立ち上げ、県で産地化するヒママンや小菊などへの転換を勧める。高齢者が露地でも栽培しやすいたばこだ。『品目転換の支援』

オイルヒーターの使用方法を参加者に説明する  
高橋さん<sup>(左)</sup>（山形県南陽市で）

## 山形 農家ら開発のオイルヒート

改良品の特徴は①ステンレス製でさびにくく耐久性に優れる②18センチタンクの容量を増やし夜間には灯油を補充する手間がない③高さが1・1・2センチ調節可能で、ブドウなど樹高の低い園地でも使いやすい——など。

高橋さんによると、園地の状況によるが10坪10〜15台で間に合う」といふ。価格は1台3万円、価格は1台3万円。農家やJ

今春の凍霜被害を受け、山形県南陽市のサクランボ農家・高橋善一さん(69)と精密機械メーカーの秀機(高畠町)が開発に乗り出していたオイルヒーターが完成、受注が始まりました。半世紀前まで活躍したオイルヒーターを改良、ステンレス製でさびにくいのが特徴。(11/17付15面)

